

兜跋毘沙門天

とばつびしゃもんてん



総高184.7cm
像高158.6cm



総高196.5cm
像高172.3cm

貴重な
仏像

庚申堂



兜跋毘沙門天がある
庚申堂の内部



● 兜跋毘沙門天は平成14年6月26日に国の重要文化財に指定されています。兜跋毘沙門天は平安時代に造られた仏像で、全国的にも貴重な文化財です。旧額田町には国・県・市合わせて27ヶ所あるそうです。

庚申堂の歴史

こうしんどうのれきし

庚申待

庚申(60日ごと)の夜に集い、南無阿弥陀仏を繰り返し唱えておまじりする。

青面金剛童子

金剛童子の身体は青色で目は赤くて三限で怒りの形相をとる。道家の説が加わり庚申待の本尊とする。青面金剛(せいめんこんごう)ともいう。

兜跋毘沙門天は木造で、「一木造り」という造りで彫られています。

一本の木から体の全身を丸彫りした造り方です。この仏像は衣紋をすどく深く入れ、見る者に力強く迫ってくるものがあります。



庚申堂の外



庚申堂のうえに「役行者」(えんのぎょうじゃ)という山の神様がいました。



役行者

